

令和4年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
キックオフミーティング 配布資料

活動団体名：株式会社萩・森倫館

活動地域：萩市

活動におけるテーマ

『 森と、まちと、人をつなげる 』

本事業への関わり：2年目

活動団体と地域の紹介

■山口県萩市とは

萩市は山口県北部に位置し、北は日本海に面し、市の南部・東部は中国山地の山々や丘陵地が大半を占め、平野は河口部などで、豊かな地形と自然環境に恵まれた地域である。

また、中心市街地は阿武川河口部の三角州に建設された萩藩の城下町であり、松下村塾や藩校明倫館などの全国に誇る学び舎があり、歴史・文化のまちとして年間約240万人の観光客が訪れている観光都市である。

市域の約8割を森林が占めており、地域林業の担い手たる林業事業体は阿武萩森林組合1者である。素材生産量の減少や木材・木製品の事業所の減少など衰退傾向にあり、既存の市内林業事業体では木材の生産量の増加及び担い手の確保・育成が困難であることから、持続的な森林資源の利活用ができていない状況にある。

また、40~50年前に発生した松枯れ後の林地に植林されたヒノキが今後伐期を迎え、枝打ちなど丁寧な管理がされてきた資源の利活用方法も課題となっている。

■活動団体 株式会社 萩・森倫館とは

かつて木材とともに森林から得られる竹や薪、炭などを利用した地場産業や生活に根ざした森林資源利用がなされていた集積地の再生を発端に設立された会社である。市と連携し、萩・森倫館が中心となって、市内に大きく広がる森林資源の循環利用を中心に、林業の再生と雇用創出の「もりづくり事業」、教育機関とも連携し地域資源を活用する人材を生み出す「ひとづくり事業」、森林資源を中心とした地域資源の利活用の継承と普及促進をおこなう「まちづくり事業」を行う。それらの事業を有機的につなげることによって、地域に根付く歴史・文化との関連付けや藩政時代から続く人材育成の地としての特色を生かした地域を目指す。

(萩・森倫館WEBサイト | <https://hagi-shinrinkan.jp/>)



現時点の地域版マンダラ

森とまちと人がつながり
風土・文化・伝統・技術が継承、循環していく地域

山・森と関わる人が
増える・共創人口増

風土・文化・伝統・
技術・経験の継承・蓄積

生物多様性保全・
森林機能の維持向上

地域産業の新展開
グレードアップ

森・木と共にある
暮らしの価値向上

自然環境景観保全

地域資源が地域で循環する

林業6次産業化

ウッドクルー・工務店・木材関連事業者

豊富な農林畜水
産業資源

観光地として
の基盤

ウッドクルー

まちじゅう
博物館構想

地域産業事業者
の減少

就業希望者・
担い手不足

低賃金・季節労働

産業、仕事

地域産業を担う人材育成

(萩創生講義・木育・林業学習)

市内事業者・行政

維新の志士を
育てた教育文化

歴史的な建築物
まち並み

定期的にくる移住者
移住促進の取組

街と森の
近接性

歴史・伝統・文化
存続の危機

若年世代の
市外への流出

空き家増による建物老朽
化、街並み保存の課題

地域コミュニ
ティの衰退

まち、人、暮らし

人が集まる森づくり

(普及啓発活動)

ジオパーク

田床山市民の森

海・山・里・川に囲ま
れた地形、豊かな景観

山・環境への
低関心

不在村、細分化された山、
山主不明、放置林

環境、自然

活動計画（概要）

想定している資源：

農林

水産

畜産

まちなみ

教育

観光

日本酒

萩焼

森と繋がっている萩の資源

① 森 × ○○な取組が次々に生まれる

地域プラットフォームを形成して
解決したい地域課題

- 放置林増加
- 土砂災害・獣害の増加
- 地場産業の衰退
- マーケットの縮小
- 歴史文化・地域コミュニティの存続危機

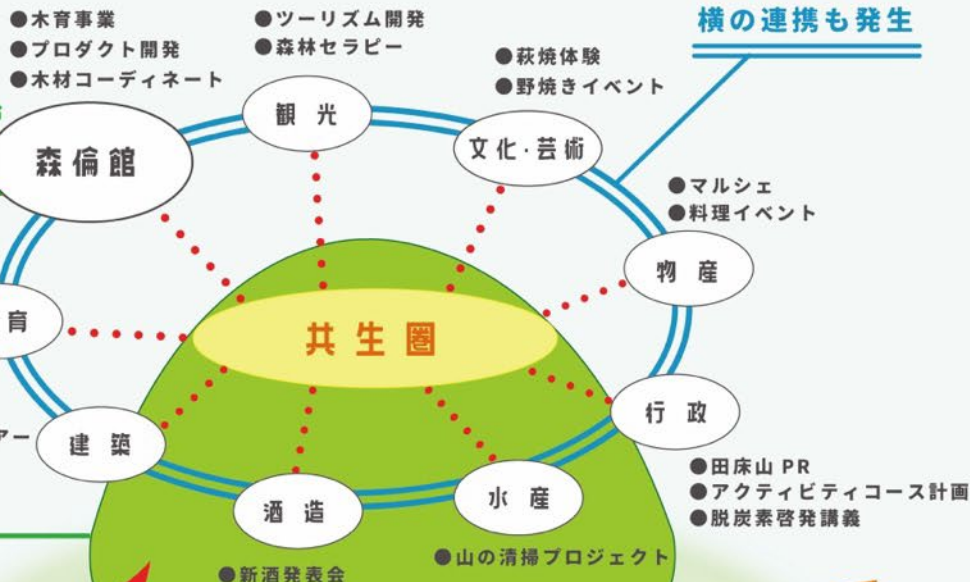


② 地域の森の魅力を知り

森と人の距離が近くなる！



森林整備



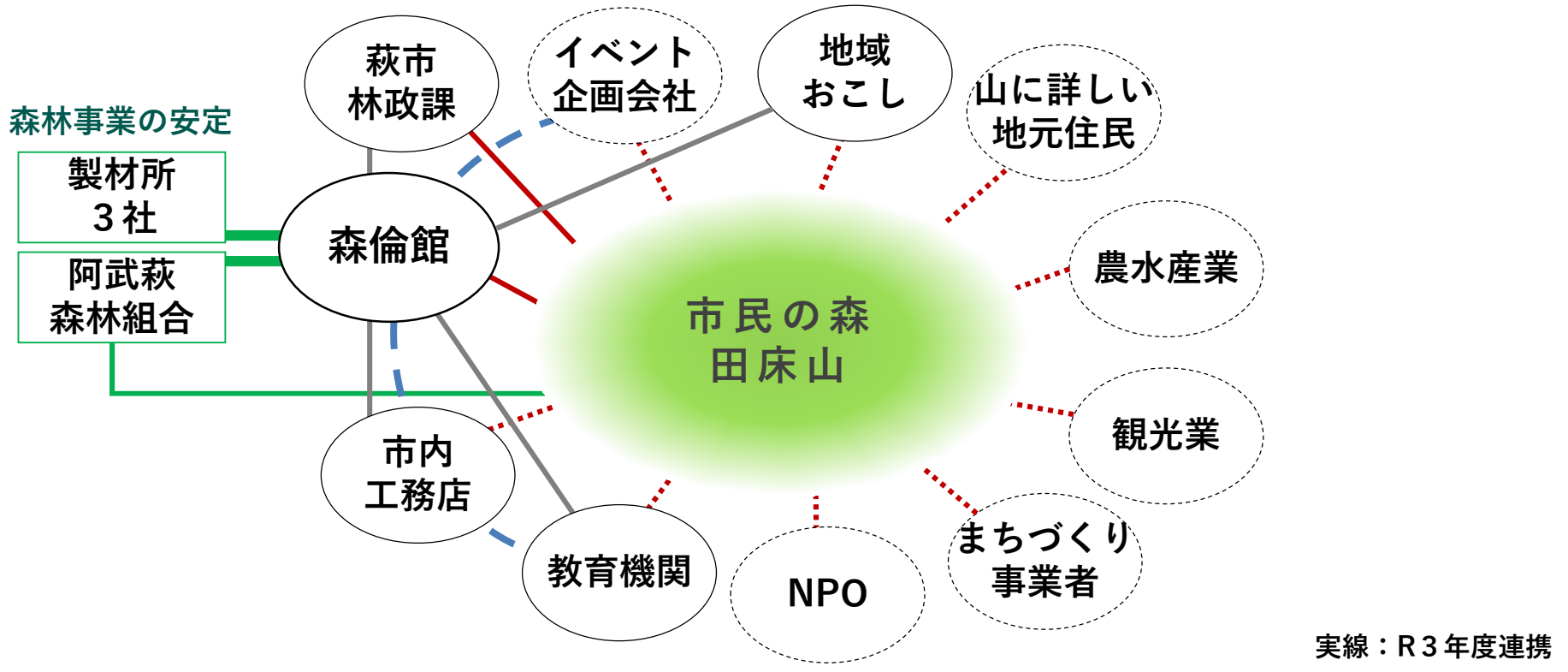
③ 地域の森林資源を活用する意識が浸透！

④ 地域資源が地域で循環する

地域のありたい未来：『森とまちと人がつながり、風土・文化・伝統・技術が継承、循環していく』

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

2023年3月 1年後の地域プラットフォームのイメージ



ステークホルダー

↑ 新たに加わってほしいSH

- ・まちづくり事業者
- ・イベント企画事業者
- ・観光業
- ・NPO
- ・農水産業

↑ 想定している課題・阻害要因

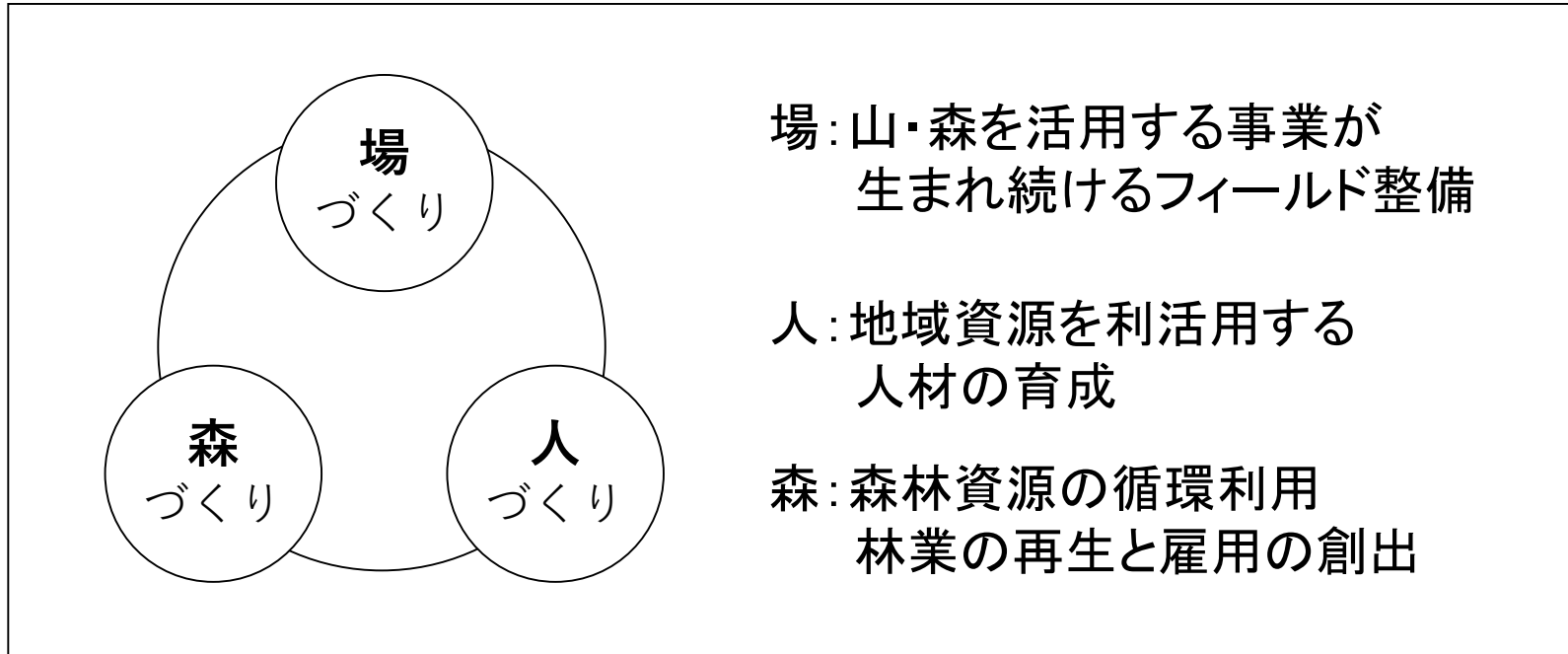
- ・主体性のある関わり継続
- ・森林資源を利活用するプレイヤーの発掘
- ・事業に対する住民理解

地域の「ありたい未来」を実現するために何をするか

地域のありたい未来

地域資源である森への関心を高めることで森とまちと人がつながり
風土・文化・伝統・技術が継承、循環していく地域

地域のありたい未来を実現するために、中長期的に見て必要な取組や仕組みは何か



今年度取り組みたい事（本事業でチャレンジしたい事）

- 萩の山・森を活用したいステークホルダーの更なる誘い込み
- 人が集まる森づくりのためのフィールド調査・整備・活用

年間スケジュール

